

埼玉県親善大使レポート

留学先：アメリカ カリフォルニア州

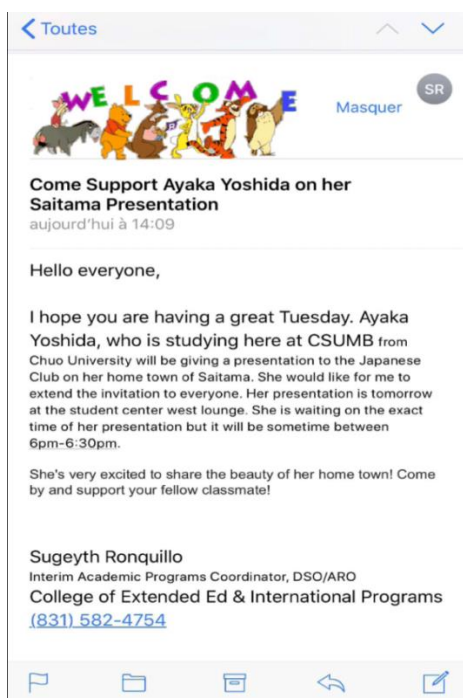
名前：吉田 彩夏

この度は埼玉世界行き奨学金に合格をさせていただき、本当にありがとうございました。5月16日をもって約9カ月間の留学が終了しました。こちらのレポートでは私が埼玉県の親善大使として現地で行った活動について報告させていただきたいと思います。

現地の大学では非常に多くのインターナショナルの学生に出会い、親交を深めてきましたが、自己紹介の際にやはりお互いの名前、国籍、出身地を聞くところから始まるのが自然の流れだと思います。アニメ、漫画等の人気や2020年東京オリンピックの開催国ということもあり日本に興味を持っている学生がたくさんおり、私がI'm from Japan! というとき多くの人が日本のどこ出身なの! ?と聞いてきてくれました。しかし埼玉県出身だよ! と伝えると、100パーセントの確率で、彼らの頭の上にクエスチョンマークが浮き上がっているのが分かります。埼玉県を知らない学生、聞いたこともない学生がほとんどでした。東京の北側に隣接する県だよ、と伝えるとみんなAh〜といって納得してくれます。それからは常に自己紹介をする際は、東京との位置関係を交えて埼玉県の出身であることを伝えるようにしました。しかし東京都から非常に近く、歴史、文化、観光の面においてもとても優れており、魅力に溢れる埼玉県がこんなにも知られていないという事実には正直残念な気持ちになり、埼玉県の親善大使に任命して頂いた以上は何か恩返しができないかと考えました。そこで考えたのは、インターナショナルの学生が集まる場所で埼玉県についてのアピールをすることでした。私の留学先の大学には日本語を学ぶクラスや、日本に興味を持っている学生から作られたジャパクラブというものがあり、そこでは日本語学習に加え、カラオケや和太鼓、茶道などの日本の文化体験がイベントとして行われていました。現地の日本人の教授の方々に連絡を取り、埼玉県についてのプレゼンテーションを行わせて頂けないか申し出たのですが、簡単に承諾を得ることはできず、やはりこちらの都合であちら側の大切なお時間を頂く以上は、こちらも彼らに得になることをする、またはただ埼玉県のプレゼンテーションというわけではなく、”日本”をもっと知ってもらい、興味を持ってもらうという枠組みの中で埼玉県をアピールポイントの一つとして埋め込み、プレゼンを行うのであればお時間を作っていただけたとのことでした。私は開催されたイベントに参加し、プレゼンテーションで使うパワーポイントの内容や話す内容を修正し、ジャパクラブと日本専攻のクラス、個人的に埼玉県について知りたい! と言っていた私の友達に埼玉県のプレゼンテーションを行いました。埼玉県がクレヨンしんちゃんなどの有名漫画、”あの日みた花の名前を僕達はまだ知らない”や”心がが叫びたがってるんだ”などのヒット映画のロケ地であったり、長瀬の荒川下り、秩父のnight festival等、自然を満喫できる点や歴史的背景から見た川越の町並みにみな興味深々になって私のプレゼンテーションを聞いてくれました。プレゼンテーションの際、私はすごく緊張していたのですが、以前埼玉県にある獨協大学に交換留学生として一年間通っていた現地の学生に協力をしてもらったり、プレゼンテーション前に学生らと日本の文化やアニメについて楽しく談話をしていたことが自分自

身の緊張をほぐしてくれました。また、プレゼンテーション中も学生たちは私の目を見て頷きながら笑顔で聞いてくれたり、あーなるほど！と言ってくれたり、非常にやりやすい空間と一緒に作ってくれました。プレゼンテーションが終わった後にも質問を投げかけてくれ、多くの学生が連絡先を交換しよう！と駆け寄ってきてくれ、その日の夜に「プレゼンすごよかったよ、ありがとう！」、「ayakaのプレゼンをみて埼玉県に行ってみたくなったよ！！」といったメッセージを送ってきてくれました。私は非常に幸せな気持ちになり、大きな達成感を感じました。

今回ありがたいことに奨学金を頂き、親善大使に任命されたことから埼玉県についてのアピールをしよう！と思いつきプレゼンテーションを行いました。この一件がこんなにも私にとってかけがえのない重要な経験の1つになるとは考えてもみませんでした。自分の都合だけではなく相手の都合を考え、同時に利益になるものにするにはどうしたらよいのかを試行錯誤をし、短い時間の中でいかに聴衆をひきつけ魅力するプレゼンテーションを行うかという課題の難しさや、緊張感を乗り越える強さ、現地学生らの温かさを肌で感じ学ぶことができました。学習面とはまた別の壁をまた一つ自分の力で乗り越えることができたと自信を持って言うことができます。私自身を成長させられる大きなチャンスを与えてくださった「埼玉県世界行き」奨学金制度に再度感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



＊現地のインターナショナルの学生のコーディネーターの方が協力してくれ、全学生に一斉メールで呼びかけをしてくださいました。